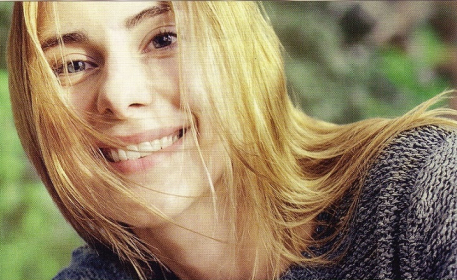


窓の向こうに  
無限に広がる  
人生があった。



2013年 モントリオール世界映画祭 グランプリ 観客賞  
2013年 グディニア国際映画祭 観客賞  
2013年 シカゴ国際映画祭 観客賞  
2013年 トリフェスト映画祭 観客賞  
2014年 ポーランド映画賞 観客賞

FILM INSPIROWANY PRAWDZIWIĄ HISTORIA

Chce się żyć

W ROLI GŁÓWY DAWAID OGROONIK

# 幸せのありがた

TRAMWAY FILM STUDIO and PRACOWNIOWNIA FILMOWA POLSKA, MONTIERIA.PL, PRESENT A FILM BY MACIEJ PIETRZAK. LIFE FEELS GOOD (CHCE SIĘ ŻYĆ) REMANDED BY POLISH FILM INSTITUTE.  
CASTING: PAWEŁ OGROONIK, TUTTI SCHIACCI, KRISIA ARAKAWA. COSTUME DESIGNER: ANNA NIECHYTA & KATARZYNA ZWIERSKA. MAKEUP APPEARANCE: KAMILA WĄCZ.  
MAKE UP: KATARZYNA GZELAK. COSTUME: ALICJA CIELIK. ART DIRECTION: JOHANA WÓJCIK. SOUND: PRZEMYSŁAW ROBERT CZYŻWAŃC. EDITING: EDUOTYSZ KRZYWETZKI. EXECUTIVE PRODUCERS: BARTOSZ CHADARSKI.  
DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY: PRZEMYSŁAW CZAJA. WRITER: BOLESŁAW PRZYBYŁO. DIRECTED BY MACIEJ PIETRZAK.

TRAMWAY FILM STUDIO



澄みきった眼差しで  
ひとりの青年が人々と  
出会い、運命を変え  
成長してゆく姿を描く  
実話から生まれた  
奇跡と感動の物語。

監督: マチエイ・ピエツァク 撮影: シヴェウ・ディルズ 出演: ダヴィド・オグロドニク、カミル・トカチ、ドロタ・コラク、アルカディウシュ・ヤクビク、カタジナ・ゼヴァツカ

2013年/ポーランド/107分 / カラー / スクリーンサイズ: 5.1ch アダプター/原題: Chce się żyć / 英語: Life feels good / 字幕: 堀池明

提供: ポーランド映画シネマテーク、アルシネテラン / 配給: アルシネテラン 監/後援: 駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター

文部科学省特別選定(青年向き・成人向き)・文部科学省選定(東海向け)/厚生労働省社会保障審議会(推薦)

© Tramway Szkoła Instytucja Filmowa a "SilesiaFilm", TVPS.A.Montieria.PL.2013

www.alcine-terran.com/shiawase/



# 世界の映画祭を大きな感動で包み、数々の観客賞を受賞。 清く澄んだ映像と主人公マテウシュの 純粹な思いが心に深くしみいる珠玉の名作。

1980年代、ポーランドが民主化へと大きく揺れ動いた時代、幼いマテウシュは知的障害と言われ、身体にも重度の障害があり、家族とのコミュニケーションもままならない。しかし本当の彼は健常者と同じように考えて悩む、ロマンチックな心の持ち主だった。本作は社会が変動する中、家族の愛情に包まれながら、マテウシュが子どもから青年へとさまざまな経験を通して大きく成長してゆく姿を描く。彼の豊かな人間性とともに、みずみずしく点描される人生のきらめきの数々——淡い初恋、別れ、そして家族の死。新たにおかれた環境では、思い悩み、闘い、憧れ、そして、運命的な出会い。誰もがこれらのエピソードに自らの大切な思い出を重ねることだろう。

「生きることの素晴らしさを教えてくれた」と世界の人々を感動させた「幸せのありがたみ」は、マテウシュの懸命に生きる姿をみずみずしく描き、ハンディキャップを抱える人の真実を示すとともに、いつしか観る者の心をも浄化してゆく。

特筆すべきは青年マテウシュを演じたダヴィト・オグロドニク。彼の卓越した迫真の演技は世界の観客を魅了した。純粹な瞳は無言の思いを映し、生きようとする真っ直ぐな姿勢に人々は深い感銘を受けたのだ。監督のマチエイ・ビエブツァは、デビュー作「木っ端微塵」(2008年/日本未公開)でポーランド映画賞(新人監督賞)を受賞。第2作目の本作で(観客賞)(主演男優賞)など主要5部門を受賞し名声を確かなものとした。



## 人生は一瞬一瞬が宝もの!

医師から“植物状態”といわれたマテウシュだったが、家族の愛情を受け多感な子ども時代を過ごす。心からの愛を注いできた父の突然の死……しかし、父から教わった星空を見上げる歌びを忘れることはなかった。向かいのアパートに住む少女への淡い恋、日々の寂しさを忘れて彼女と過ごした甘美な時間、突然訪れる別れ、そして成長と共に彼は家族に疎まれてゆく。ある日、姉は結婚を期に、彼を病院に入れてしまう。憤りと不満を母や看護師にあたる毎日だったが、美しい看護師マグダが現れ、マテウシュは彼女と心を通わせるようになってゆく……

人間の意志の可能性と強さを  
我々に教えてくれる。

—cineurop



孤独と不屈の精神を描き、優しさで満たされた作品。  
『幸せのありがたみ』は、今日のポーランド映画の中で  
最も感動的な作品の一つである。

—CULTURE.PI

最高の賞に値する最高の映画である。

—LIVRECINEMA